

第 1 学 年 英 語 科 学 習 指 導 案

1 単元 Program 5 「由紀, シアトルに行く。」〈Sunshine English Course 1〉

2 指導観

- 平成 23 年度より実施される小学校の新学習指導要領では、外国語活動は、英語教
育と正式に位置づけられることが決まるとともに、4 技能のうち「聞くこと」と「話すこと」
が中心となる。これは英語教育が「言語」の一面を併せもつことからも、外国人との
コミュニケーションを指導したほうが、子どもへの興味・関心の育成に有益であると考
えられるからである。一方、中学校では「書くこと」と「読むこと」を加えた 4 技能を
授業の中でバランスよく取り入れて指導することが必要である。これは高校英語に繋
げるといふ点から大切である。また、生徒達が将来実社会で使うべき英語力の育成
にも結びつくと考える。
本単元では、主人公である由紀の初めてのアメリカ旅行が題材に使われている。本
格的に英語を習い始めるにいくつたか、夏休みを利用して、シアトルに住んで
いるマリおさんに会いに行くために初めて飛行機に乗り、タコマコ空港でおばさんの
出迎えを受ける内容である。シアトルにはイチロ選手が在籍している大リーグ球団
であるマリナーズがある。また、ホークス出身の捕手も昨シーズンの所属して
いたこともあり、生徒達にも馴染み深い都市である。言語材料としては、命令文や疑
問詞の which や where を利用して相手に積極的に話しかける方法を学習している。
○ 本学級の生徒は 34 名で、大変元気がよく、けじめがある態度で授業に臨める。徒
達である CD を使った発音練習は楽しい雰囲気で行われ、教師の発問に対しても積
極的に応える生徒が多い。英語が好きで意欲的に授業に取り組む生徒は少なく
半面、理解に時間がかかり家庭学習も不十分なために苦手意識が強い生徒も少
くない。在籍している。そのため、授業では、基礎・基本の力を身に付けさせるた
めに丁寧にとりかかるとか、新出単語と本文の音読練習に力を入れて指導して
いる。
○ 指導にあたっては、初めての海外旅行という本課の導入の際には、生徒に本
物のパスポートを見せたり、空港での出国審査や入国審査等の話をしたりして
生徒の興味・関心を高めたい。具体的には、picture card や学習プリントを使っ
て、命令文の使い方、またある限られた範囲から一つないしそれ以上の物や人
を選択するとき使う which と、場所を特定するとき使う where の使い方を指導
していく。
今年度はチームティーチングを実施しているため、2 人の模範対話を生徒に聞
かせたり、ワークシートのチェックを手分けして丁寧に行ったりするなど、英
語が苦手な生徒への支援をこまめにしていく。また、発表は希望者を募り活
気ある場面をたくさん設けていき、間違いを恐れず積極的にコミュニケーション
をとり育てていく。

3 単元目標

観 点	評 価 規 準
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな場面や状況において、命令文や否定命令文を用いて表現しようとしている。 ○ 疑問詞 which を用いて、複数のものや人の中から一つないしそれ以上のものを選択する質問をしようとしている。 ○ where を使い、ペアでの対話練習に積極的に取り組んでいる。
表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命令文や否定命令文を用いて発話したり、書いたりできる。 ○ 疑問詞 which を用いて発話したり、書いたりできる。 ○ where と場所を表す前置詞を正しく用いて、英文を書くことができる。
理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命令文や否定命令文で表現された文を聞いて、その意味が分かる。 ○ which を用いた疑問文とその応答文の作り方を理解している。 ○ where を用いた疑問文の意味とその答え方を理解することができる。
言語や文化についての 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ命令文であっても、話し方やイントネーションによって命令、提案、依頼の表現に変化することを理解している。 ○ which を使った問いかけに対しての名詞の重複表現を避けるための one の使い方を理解している。 ○ where を使った問いかけに対し、場所を表す前置詞を使って場所を特定することができる。

4 単元の指導・評価計画 単元の配当時間：6 時間

※ 「指導上の留意点」における①②③：3 つの授業改善のポイントに係る手だて

① 「教えること」と「学ばせること」を区別した手だて

② 学習過程の要所で「考えを書くこと」を大切にしたい手だて

③ 学習したことの「まとめ」と「ふり返し」を徹底した手だて

●：家庭学習の課題を生かした手だて ○：一般的な手だて

※ 「評価規準（評価方法）」における観点

関：コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表：表現の能力

理：理解の能力 言：言語や文化についての知識・理解

次	時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	2	Pro.5 Section1(1) ・基本文の学習 命令文・否定命令文の導入及び練習 ・パスポートの提示と海外旅行の流れの確認 ・依頼文 please, 勧誘文 let's の復習と確認	① 新出単語, 基本文, 本文を複数回音読させることによって発音やイントネーションを習得させる。	関 表 いろいろな場面や状況において, 命令文や否定命令文を用いて表現しようとする。 (様相チェック) 命令文や否定命令文を用いて発話したり, 書いたりできる。(様相チェック・プリント分析)
		Pro.5 Section1(2) ・新出単語の意味と本文の訳の確認 ・リスニング ・学習プリントを用いての基本文の確認及び練習	① 基本文を利用しての基礎問題を解かせ, 表現を定着させる。 ② 命令文・否定命令文・依頼文・勧誘文の4つの中から, 状況に応じた適切な表現を考えさせる。 ③ 基本文を提示し, 状況に応じて変化させることで, 学習内容をふり返らせる。 ● 家庭学習として, αノートに新出単語と基本文を覚えるまで書いて練習するように指示する。	理 言 命令文や否定命令文を聞いて, その意味が分かる。(様相チェック) 同じ命令文であっても, 話し方やイントネーションによって命令, 提案, 依頼の表現に変化することを理解している。(プリント分析)
2	2	Pro.5 Section2(1) ・基本文の学習 which の導入及び練習 ・picture card を使用しての which の問答練習	① 新出単語, 基本文, 本文を複数回音読させることによって発音やイントネーションを習得させる。 ○ picture card を使って基本文のパターンプラクティスを行わせる。	関 言 疑問詞 which を用いて, 複数のものや人の中から一つないしそれ以上のものを選択する質問をしようとする。 (様相チェック) which を使った問いかけに対しての名詞の重複表現を避けるための one の使い方を理解している。 (プリント分析)
		Pro.5 Section2(2) ・新出単語の意味と本文の訳の確認 ・リスニング ・学習プリントを用いての基本文の確認及び練習 ・which を使った問答練習	① 基本文を利用しての基礎問題を解かせ, 表現を定着させる。 ② which を使って, 状況に応じた英文を書かせる。 ③ picture card を使って which を使った問答を確認させる。 ● 家庭学習として, αノートに新出単語と基本文を覚えるまで書いて練習するように指示する。	表 理 疑問詞 which を用いて発話したり, 書いたりできる。 (様相チェック) which を用いた疑問文とその応答文の作り方を理解している。(プリント分析)
3 本時	2	Pro.5 Section3(1) ・基本文の学習 where の導入及び練習 ・picture card を使用した問答練習 ・県庁所在地・都道府県組み合わせクイズにおけるペアでの対話練習, 発表	① where と場所を表す前置詞 in の用法を板書し, 理解させる。 ① ペアで場所あてクイズを行い, where を用いた疑問文とその応答文を考えさせる。 ○ where と in を使って県庁所在地と都道府県の組み合わせクイズに答えさせる。 ② 学習プリントで場所を尋ねる文とその応答文を考えさせ, 書かせる。 ③ picture card を使用し, where の用法と場所を表す前置詞の使い方を確認し, ノートに書かせる。 ● where を使った問答文を α ノートに何度も書いて復習するように指示する。	関 表 where を使い, ペアでの対話練習に積極的に取り組んでいる。(様相チェック) where と場所を表す前置詞 in を正しく用いて, 英文を書くことができる。(プリント分析)
		Pro.5 Section3(2) ・新出単語の意味と本文の訳の確認 ・リスニング ・学習プリントを用いての基本文の確認及び練習 ・場所を表す前置詞 (in, on, under, by) の導入及び練習	① 基本文を利用しての基礎問題を解かせ, 表現を定着させる。 ② where を使って, 状況に応じた英文を書かせる。 ③ picture card を使って where を使った疑問文とその応答文を確認させる。 ● 家庭学習として, αノートに新出単語と基本文を覚えるまで書いて練習するように指示する。	理 言 where を用いた疑問文の意味とその答え方を理解することができる。(プリント分析) where を使った問いかけに対し, 場所を表す前置詞を使って場所を特定することができる。(様相チェック)

5 本時 平成22年9月 日(曜日)第 校時 計画6時間中の5 第1学年教室にて

(1) 本時の主眼

- where を使い、ペアでの対話練習に積極的に取り組んでいる。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- where と場所を表す前置詞 in を正しく用いて英文を書くことができる。
(表現の能力)

(2) 本時の指導観

前時までに生徒は、命令文を用いて相手にしてほしいこと、してほしくないことを伝えたり、which を用いて、ある限られた範囲の中から一つないしそれ以上のものや人を選択したりできることを学習してきた。

本時は、さらに話の幅を広げるために、場所を尋ねる際に用いる where を学習する。導入時に picture card を基に模範対話を聞かせ、その内容を考えさせることで、場所を尋ねる際には where を使うことを気づかせる。本時は where を用いて場所を尋ねたり、場所を表す前置詞 in を使ってそれに答えたりすることができることをねらいとする。展開では、県庁所在地の場所当てクイズをペアで行わせる。実際に自分が必要な情報を where を用いて尋ねさせ、答えさせることで表現の定着を図りたい。さらに、ペアで行った対話を参考にプリントに対話表現を書かせることで、話す活動から書く活動へとスムーズに繋ぎ、書くことへの抵抗感を減らすことができると考える。

本時のまとめとして、picture card を用いて where の用法と場所を表す前置詞の使い方を再度確認させる。また、where を用いた疑問文を使うことで、会話の幅を広げることができることを伝え、コミュニケーションすることへの意欲・関心を高めさせたい。

(3) 準備

- 教師・・・ピクチャーカード、CDラジカセ、日本地図、学習プリント
- 生徒・・・教科書、ノート、ファイル

6 過程

学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準(評価方法)	形態	配時
1 英語であいさつを行う。	○英語であいさつを行い、その後に忘れ物の確認をする。		全体	2
2 教師の対話を聞きとり、本時のめあてを確認する。	○whereを用いた対話の内容を考えさせ、本時のめあてをつかませる。		全体	3
めあて：場所を尋ねたり、それに答えたりできるようになる。				
3 基本文を確認し、板書をノートにとる。	①where と場所を表す前置詞 in の用法を板書し、理解させる。		個	5
4 基本文の口頭練習を行う。	○教科書を音読させ、基本文の定着を図る。		全体	7
5 前置詞の使い方を確認する。	○picture card を用いて対話を行い、前置詞の意味を確認させる。		全体	3
6 県庁所在地を尋ねたり、それに答えたりする。	①ペアで場所当てクイズを行い、where を用いた疑問文とその応答文を考えさせる。 ○where と in を使って県庁所在地と都道府県の組み合わせクイズに答えさせる。 ○発表の場をもち、表現の定着を図る。	関：where を使いペアでの対話練習に積極的に取り組んでいる。 (様相チェック)	全体	20
7 学習プリントにwhereを用いた疑問文と、その応答を書く。	②学習プリントの県庁所在地の中から4つ選択させ、それぞれの所在地を尋ねる文とその応答を考えさせ、英文を書かせる。 ○机間指導の中で、全員の英文を確認し、必要があれば助言、支援する。	表：where と場所を表す前置詞 in を正しく用いて、英文を書くことができる。 (プリント分析)	個	7
8 本時の学習内容をふりかえる。	③picture card を使用し、再度 where の用法と場所を表す前置詞の使い方を確認し、ノートに書かせる。 ●where を使った問答文をαノートに何度も書いて復習するよう指示する。		全体	3

